Ⅱ．家　庭　で　の　学　習　の　状　況

与えられた宿題や課題は、平常時よりも、真剣に取り組もうとする姿勢が感じられるが、自ら課題を設定し、自主的に学ぶ力は簡単には身に付くものではない。

学習指導は学校の根幹をなす責務である。通信制の小学校のイメージで、**指導と評価のシステム**を早急に構築する。自立した学習を強力に支援する。

「■」緊急課題
「→」具体的な方策
「▽」そのための問題

毎日学習している･･･９割

■少人数・個別指導の制度設計が必要
→ 相談日や確認テストを実施。
▽ 児童が在宅で取り組める課題の作成。

自主学習を実行･･･５割

■自主学習を確立するチャンスとする
→ 自主学習を支援、コントロールする。
▽ 動機付け、意欲の換気、家族の協力。

校長先生の課題･･･６割

■多様な課題を楽しむ、学びを楽しむ
→ 新たな課題を企画・立案する。
学年に応じて、楽しめる課題。
選択し、自力解決できる課題。

長期化した場合･･

在宅学習へ移行

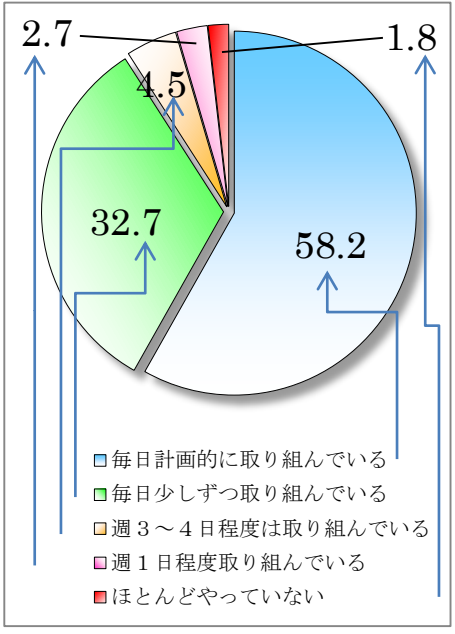
■在宅学習という考え方にチェンジする
→ **在宅課題を開発、学習、評価する。**
→ **スクーリングを実施する。**
週１回、１人 30 分をベースに、
個の実態や感染状況に応じて、
１班２人～16 人の組合せを展開。
（２人なら週１時間、８人なら週４時間の授業となる）

【 学 習 状 況 】

毎日学習している･･･９割

○在宅時間割に沿って実行。

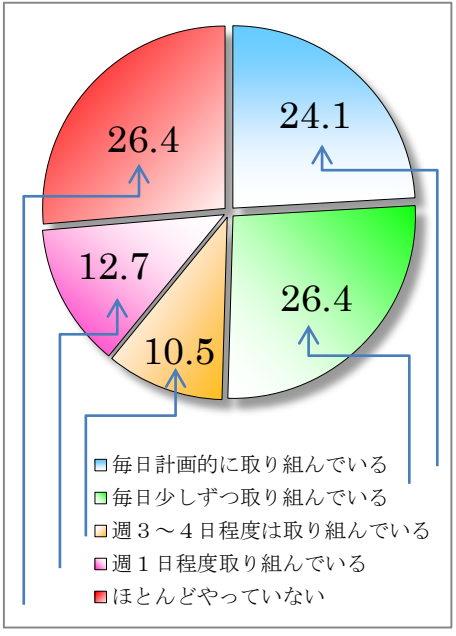
○学習していない児童がいる。



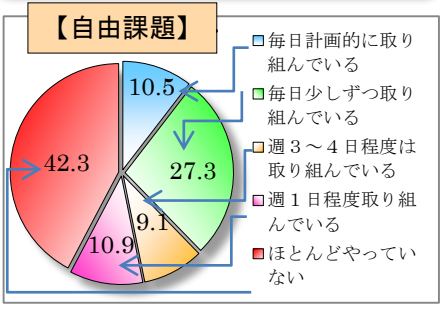
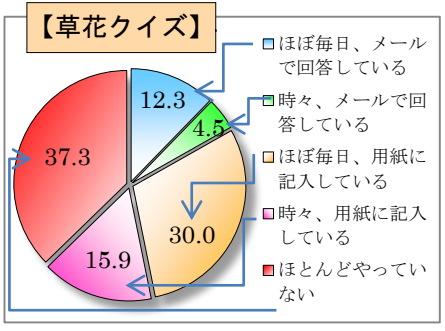
自主学習を実行･･･６割

○５割は毎日、取り組んでいる。

○４割の児童は取り組まず。



校長先生の課題･･･６割

○個に応じて課題を選択。

○４割の児童は取り組まず。